

2018年夏 第47回釜ヶ崎夏まつりへのご参加・ご支援要請

釜ヶ崎の夏まつりも、今年で47回目を数えることになりました。こうして長い間続けてこられたのも、釜ヶ崎労働者、および、多くの支援のみなさんの、夏まつりに寄せる思いのたまものと感謝しております。今年も、釜ヶ崎三角公園で、8月12日(前夜祭)～15日まで、労働者とともに、まつりを盛りあげていきたいと思っております。

釜ヶ崎夏まつりは

72年に第一回が行われ、以来、とぎれることなく続けられ、手づくりのまつりとして釜の労働者の間に定着してきました。

この夏まつりは、多くの釜の単身労働者にとって、いわば、ふるさとでのお盆のような行事として親しまれてきました。また、夏まつりの期間中、公園には祭壇が設けられ、最終日には、亡くなった多くの仲間の追悼も行われてきました。長い間、釜の夏まつりが歴史を刻んできたのは、労働者の、夏まつりに寄せる、そういう思いがこもったものでもあったからと思います。

同時に、たくさんのミュージシャン、演歌歌手、芸人さんなどの参加、釜の労働者が主役の労働者名人会、のど自慢、スイカ割り、つなひき、相撲大会、そして、盆踊り、それに加えて、たくさんの手づくり屋台など、夏まつりの催しも釜ヶ崎労働者、地域の住民、支援者などたくさんのみなさんの参加により、釜ヶ崎の文化としてすっかり定着してきました。それゆえ、この釜の夏まつりは、これからもずっと、続けていかなければならない大切な取組みといえます。

今年の釜ヶ崎夏まつりは

ここ数年来のセンター建て替え問題が具体的に動き出し、萩之茶屋小学校跡地での第一住宅建設、南海高架下への労働福祉センター・あいりん職安の仮移転工事が始まりました。

この問題をめぐっては様々な利害関係から様々な意見が飛び交っていますが、釜ヶ崎労働者にとっては、重大な問題です。それは、これまでのセンターは市、府、国の管理であったことから、その間隙を現役、失業・野宿、生保など様々な立場の労働者が『居場所』『憩いの場』としていましたが、建て替えに伴う建物の分散、管理者の分散をただ看過するだけでは『居場所』『憩いの場』としての機能が無くなってしまうという大きな問題です。これまでの行政の分担として、居場所・憩いの場の提供者は大阪市ですが、大阪市は市営住宅、医療センターが分離されることによって住宅の管理だけに撤退し、新たな労働施設には関与しない、大阪府は労働関係しか関与せず、居場所・憩いの場は管轄外だと言い出しかねないということです。センターに労働者の居場所がなくなってしまうことが懸念されています。

昨年は国による「働き方改革」を口実とした日雇い労働者に対する締め付け、社会保障(日雇雇用保険・健康保険)の取り上げも始まっています。今まで実情に合った運用をしてきた日雇い手帳を「2ヶ月にわたり同一事業者で18日以上働いたら日雇雇用保険を適用しない」「失業給付金は振り込みが原則」など日雇い労働者の実態とかけ離れた理不尽な運用をし始めました。日雇いとして日銭で生活するから保険料を印紙で日掛けしているのに、仕事に行けなかったときの生活費である給付金は数日後に口座振り込みするなど月給取りである官僚の考えることでしかなく、手抜きであり、日雇い労働者のための社会保障という本来の趣旨を踏みにじる違法行為でしかありません。私たちはこうした締

め付けとも闘ってきましたが、引き続きこうした状況を突破するような声・力・運動が今の釜ヶ崎には求められています。

今年もこれらの労働者・住人をめぐる情勢の中で第47回釜ヶ崎夏まつりは行われます。

釜ヶ崎をとり囲む日本の社会は、自民党圧勝が続き、一党独裁とでも言うべき政治情勢です。

この間、秘密保護法で市民の知る権利を奪い、安保法制とあわせ「思想を裁く平成の治安維持法」といわれる「共謀罪」を一連の強行採決という強引な手段で押し通し、国家が市民を誘導・支配する国へと変貌を遂げました。

一強の政権は腐敗を極め、森友・加計学園問題に表れたように政権中枢に近い縁故関係へ税金を投入し利益を回すためのお友だち優遇政治が横行し、沖縄では選挙を通じて示された民意を無視しての機動隊の暴力を使った辺野古基地建設が本格的に強行され、自衛隊は安保法制の下、戦闘地域である南スーダンに派遣され、実際に戦闘に巻き込まれましたが、その事実を有権者に隠すという暗黒政治がまかり通る戦争国家になってしまいました。

今だ、事故原因も明らかにされず安全対策もうやむやなまま、原子力エネルギー政策が復活させられ、住民や労働者の安全が確保されないまま各地の原発の再稼働が行われています。

戦争国家にとって、失業・野宿者、生活保護に頼る高齢者が「不要な者」とみなされるのは火を見るよりも明らかで、社会保障の切り下げ、切り捨てとともにこうした「国家」のための社会、市民に優しい社会の出現は、今まで以上に釜ヶ崎の住民にとっては生存を脅かされかねない状況であり、沈黙することはできません。

今年の夏まつりも、地域的にも、社会的にも環境が大きく変貌する中で行われます。こうした社会情勢の中で、だれのための社会づくりをしていくのか、まちづくりをしてゆくのかということを一一人が考えさせられる夏に、現役、失業・野宿、年金・生活保護の仲間たちが団結を打ち固め、全国の労働者、市民と結びついていくことができるような祭りにしてゆきたいと思います。

今夏まつりも「老いも若きも安心して働き、生活できる釜ヶ崎を！」をメインテーマとして位置づけながら、やっていきたいと思います。多くの皆様のご参加をお願い致します。

資金協力のお願いです

さて、夏まつりは、これまでも多くの方々のカンパ金によって運営してまいりました。ありがとうございます。実行委員会でも自前の財源確保の努力はしておりますが、今回の夏まつりもこれまでと変わらず、釜ヶ崎の運動、とりくみに関心を寄せる多くの支援のみなさんに、資金協力をお願いをしたいと思います。祭り当日は本部席にもカンパ箱を用意してあります。よろしく願いいたします。

第47回釜ヶ崎夏まつり実行委員会 実行委員長 山田 実

06-6632-4273

【振込先】

①みずほ銀行 難波支店 普通口座1387094 釜ヶ崎実行委員会代表 山田 実

②ゆうちょ銀行 記号141 番号33722521

【他金融機関から振り込みの場合】

③ゆうちょ銀行 店番418 普通預金3372252

④郵便振替口座 00960-4-108331

※②③④は、名義:釜ヶ崎実行委員会